

令和 5 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	67	学校名	茨城県立竹園高等学校					課程	全日制			学校長名				辻 武晴		
副校長名	荒井 豊水					教頭名			武田 和子			事務室長名				吉田 孝則		
教職員数	教諭	56	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	4	実習教諭、 実習講師、 実習助手	1	事務職員	4	技術職員等	4	ALT	1	計	76
生徒数	小学科			1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合 計 クラス数				
				男	女	男	女	男	女	男	女							
	普通、国際 科			160	160							160	160	8				
	普通 科					119	117	121	110			240	227	12				
	国際 科					41	40	51	25			92	65	4				

2 目指す学校像

個性と創造性の伸長を図り、社会の要請に応え得る広い視野と、磨かれた知性・たくましい体力・気力を合わせ持つ人材の育成を図るため、以下の項目を重点とした学校づくりを行う。 ○自己・他者・地域・国際社会などの多角的な視点を持ち、諸問題に対する幅広い関心と理解のもとに調和のとれた課題解決を図ることができる資質能力の育成を図る学校。 ○英語・日本語など複数の言語で議論するコミュニケーション能力を磨き、他者の意見を尊重しながら協働して合意形成を図ることができる資質能力の育成を図る学校。 ○自国の文化や歴史を尊びアイデンティティを確立し、持続可能な共生社会の実現に向けて主体的に考えて行動できる人間の育成を図る学校。

3 三つの方針（スクールポリシー）

「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	・多角的な視点を持ち、諸問題に対する幅広い関心と理解のもとに課題解決を図れる資質能力の育成 ・複数の言語で議論するコミュニケーション能力を磨き、他者の意見を尊重しながら協働して合意形成を図ることができる資質能力の育成 ・自国の文化歴史を尊びアイデンティティを確立し、持続可能な共生社会に向けて主体的に考えて行動できる人間の育成
「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	・県内の学習指導、進学指導を牽引するリーダー校として、学力向上の推進、難関大学及び医学部志望者への進路実現 ・国際科においては特に「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」のバランスが取れた育成を図る
「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	・様々な分野に対して興味を持ち、探究心旺盛で、積極性・主体性に富む意欲のある生徒 ・国際的な諸問題に関心を持ち、英語等の言語及び異文化理解に努める生徒 ・自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	・ICTを活用した授業運営を積極的に進め、「授業第一」をモットーに生徒が主体的に学習に取り組む指導を心がけている。素直で誠実な生徒が多く、高度な学びに対するポテンシャルの高さが感じられる。	・生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導法を工夫し、授業を通じて生徒が学問に対する興味と関心を高め、将来の進路選択に向けて広い視野と幅を広げられるようにする。 ・高度な探究や視野の拡大につながるよう授業研究を推進する。
進学指導	・難関国公立大学進学希望者が増えていることから、適切な情報提供を努め、面接指導等を重視した丁寧な進学指導体制で取り組んでいる。今年度の国公立大学現役合格者は145名、東大は4名であった。 ・一方、国公立大学現役合格者数は令和3年度入試での200名をピークに下落しており、進路指導の強化が必要である。	・面談を密に行うことで進路相談を充実させ、一人一人の進路希望を把握し、高い志と粘り強さを保つ姿勢を育成する。 ・最上位層の指導の研究を継続させるとともに、成績層別課外等の実施を検討する。 ・新課程の大学入試を高大接続の視点で見通し、教育活動の見直しを図る。
生徒指導	・ほとんどの生徒は高い規範意識を持っており、問題行動もない。 ・反面、学校生活に何かしらの不安を抱えている生徒も多い。	・生徒が自らよき生活習慣、生活規律を確立し、健康的にバランスよく学校生活をおくれるよう支援する。 ・あいさつの励行、交通マナー等の意識向上をより一層推進する。
特別活動	・生徒会や実行委員会により、学校行事の企画運営は生徒主体で行っている。部活動の加入率も高い。	・学校行事や部活動において、生徒がその力を十分に発揮し、自己肯定感や自己有用感を高めることができるよう支援する。 ・「キャリア・パスポート」の活用をさらに推進する。
働き方改革	・教職員一人一人が、誇りと充実感をもって、熱心に教育活動に取り組んでいる。ICTによる業務の効率化、行事の精選を行っているが、全体的に多忙感は否めない。	・教員が専門的スキルを高めるため、生徒と向き合う時間を確保するために、さらなる業務の見直しを行い、超過勤務時間の縮減を図る。 ・学年、校務分掌、教科等の枠を超えた協働体制を整える。 ・事務室との連携と協働など、学校マネジメント機能を強化する。
事務室	・予算の効率的な執行とともに、校内環境等の整備を進めている。	・計画的執行を図るとともに、事業の優先順位を踏まえ、かつ、経費の削減に向けて工夫を凝らした執行に努める。 ・施設設備の安全面の維持や植栽などの環境整備を実施する。

5 中期的目標

本校教育の核である活力ある進学指導を推進し、特色ある学校づくりを目指す。

- 1 充実した授業と信頼関係に基づく丁寧な指導により、生徒の高い次元での進路希望の実現を図る。
- 2 自ら学ぶ姿勢(信念・気概・自学自習の精神)、考える力や主体性を持つ自己教育力のある生徒の育成を図る。
- 3 学業面に加え、教科外活動やボランティア活動にも力を入れ、「知徳体」のバランスのとれた人格形成を図る。
- 4 教職員一人一人が、適切な量の業務を行い、自身の健康および福祉の確保をし、教育活動の水準の維持向上を図る。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 学習指導の充実と授業改善の推進	(1) アカデミックな授業—竹高生がもつ「凄さ」(ポテンシャル)を「輝かせる」授業と教育活動— ・教員、生徒がともに真摯に学びあう姿勢を追求する。① ・授業研究を推進し、鋭意工夫と改善を常に行い、高度な知識と教育スキル、教科指導力を兼ね備えた教員集団となる。相互授業見学(ちょい見)、授業改善を一層推進し、K P Iとして「生徒による授業評価アンケート」における授業満足度の平均値3.2以上を目指す。② ・竹園高校の学習指導の根幹である「授業第一」を貫き、授業を通じて生徒が学問に対する興味と関心を高め、将来の進路選択に向けて広い視野と幅を広げられるようにする。③ ・生徒が「深い思考力や判断力、表現力」を身につけ、さらに高度な探究や視野の拡大につながる授業や学習活動(クロス・カリキュラム、チャレンジ・プロジェクト重点校の取組、探Q活動、ACEプログラム、SDGsの取組等)を行う。④ ・教育改革の動向を見据えた学習指導体制、内容の見直しを進める。指導内容・方法の改善と充実を図る。⑤ (2) 主体的に学ぶ意欲・態度の育成—生徒が能動的な学びに思う存分挑戦する— ・生徒が自ら主体的に学び、さらに高度な学びに向かって挑戦していく意欲を高める。⑥ ・生徒に育成すべき資質・能力として、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を常に意識して取り組む。⑦ ・生徒が自学自習を進めやすくなるような方策を検討するとともに、適切なアドバイス等を行う。⑧ (3) 探究を軸とした学びのスタイル改革とICT教育の推進
2 進路指導の充実	・生徒の自己実現、「高い志」をもって進路目標が設定できるためのキャリア教育の充実を図る。⑨ ・生徒の進路希望の実現に向けて、学校全体で組織的な支援を行う。⑩ ・近年の大学入試の傾向を研究・理解し、生徒、保護者に適切に情報提供を行う。⑪ ・新課程の大学入試(2025年度大学入試、経過措置も考えれば2024年度入試での対応も必要)を高大接続の視点で見通し、本校の課題を明確にして教育活動の見直しを進める。⑫ ・生徒・保護者の進路希望を確実に実現するとともに、地域社会の期待に応える進路指導を行う。⑬
3 豊かな人間性と心身のたくましさの育成	・本校で学ぶ生徒は、将来、「知・徳・体」のバランスがとれたリーダーとなり、地域社会はもとより、日本、世界の発展に貢献していく人材となる。⑭ ・本校のあらゆる学習活動、学校行事、部活動、学校外活動等を通じて、互いの違いや多様性を認め合い、協力・協働するなかで自分の可能性を見だし、「高い志」をもって何事にも挑戦していくたくましい心身を育成する。⑮ (1) 学校行事・部活動・課外活動・学校外活動とキャリア・パスポートの活用 ・学校行事や部活動において、生徒がその力を十分に発揮して、自己肯定感や自己有用感を高めることができるよう支援を行う。⑯ ・各種コンクール、コンテストや課外での行事、地域社会での行事やボランティア活動等に積極的な参加を促していく。⑰ (2) 人権教育・教育相談の充実 ・「生徒一人一人を大切に、人権が尊重された教育活動」を基盤におき、すべての教育活動において「自分を大切にし、他者を大切にし、多様性を認め、そのなかで自分も大切にされる」集団づくりを進めていく。⑱ ・生徒や保護者に対するきめ細やかな教育相談ができるよう、情報の共有、SCとの連携を一層充実させる。⑲

別紙様式 1 (高)

4 グローバルリーダーの育成	・国際的な視野を育むとともに、グローバルな社会課題を多角的に学び、積極的にその解決策を提言できる生徒を育成するため、地域社会（SDG s 未来都市つくば）や大学との連携を通じた教育活動を行う。⑳ ・英語の4技能をバランス良く育成し、英語によるコミュニケーション能力の一層の伸張を図る。㉑ （1）コミュニケーション力、議論する力、プレゼンテーション力の育成 ・授業を中心とするさまざまな学習活動のなかで、自分の考えをまとめ表現できる力、相手の主張を理解し自分の意見を交えてしっかりと議論できる力を育成する。㉒ （2）地域社会との連携、高大連携の充実 ・地域社会との連携、高大連携を通じて、国際的な視点で最先端の知識に触れるとともに、国際的な社会課題やその課題解決に向けた意欲を高める。㉓
5 学習環境の整備と生活規律の向上	（1）学習環境の整備 ・生徒の主体的な実践を通して校内美化を徹底し、清々しく過ごせる学習環境をつくる。㉔ ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底する。㉕ （2）生活規律の向上 ・生徒が自らよき生活習慣、生活規律を確立し、学習、部活動、課外活動、学校外活動等に健康的にバランス良く取り組むことができるよう支援を行う。㉖ ・生徒の自己管理能力の育成。㉗ ・生徒会、各委員会活動など、生徒主体で積極的な活動を促す。㉘
6 情報発信の充実と開かれた学校づくりの推進	・本校を取り巻く教育環境の変化に積極果敢に対応して、全校体制で広報活動を実践する。㉙ ・学校WE Bページを充実させ、教育活動の様子や「頑張る竹高生」の姿を発信する。㉚ ・学校説明会や学校公開を充実させ、本校の魅力をPRし志願者の一層の確保を図る。㉛ ・本校の教育に理解と共感を抱く保護者、生徒の拡大を図り、「竹園高校で学びたい」という意欲旺盛な生徒の獲得を目指す。㉜
7 働き方改革の推進と職場環境のさらなる改善	・自分の仕事に誇りを持ち、働きがいを感じ、教員自らが成長できる職場環境の実現を目指す。㉝ ・学年、校務分掌、教科等の枠を越えた協働体制を整える。㉞ ・教員が専門的知識や教育スキルを高めるため、生徒と向き合う時間を確保するため、業務の見直しを行い、部活動の運営方針を遵守し、超過勤務時間の縮減に取り組む。㉟
8 コンプライアンスの遵守	・厳正な規律と高い倫理感を持って職務に精励することで、生徒・保護者・地域社会から信頼され続ける学校づくりを推進する。㊱ ・教育公務員としての高い使命感・倫理観をもち、厳正な規律をもって服務規律を遵守して職務に取り組む。㊲